

## ●無呼吸発作

新生児無呼吸発作とは、一般的には 20 秒以上続く呼吸停止、もしくは呼吸停止が 20 秒未満でも徐脈またはチアノーゼを伴うものとされています。

原因によって 2 種類あり、小さく生まれたことによる呼吸中枢の未熟性などによるものと、感染や代謝異常、中枢神経系の異常などによっておこるものがあります。

小さく生まれたことによる無呼吸発作はおおむね 34 週より在胎週数の浅い赤ちゃんにおこります。多くは成熟するにつれて改善しますが、無呼吸発作は基本的に赤ちゃんの神経や循環にとって望ましいことではありません。そのためなるべくおこらなくするための治療を行います。

治療は、薬物治療として、呼吸中枢刺激作用があるキサンチン製剤（アプニション®、アプネカット®、カフェイン®など）を使用します。副作用として、頻脈、腹部膨満、嘔吐、壊死性腸炎、高血糖、けいれんなどがありますが、注意深く観察しながら投与すれば問題がおこることは少ないです。また、呼吸管理として、無呼吸発作の頻度が軽減できる最小量の酸素を持続投与したり、必要であれば人工呼吸器管理をして呼吸をサポートします。